

農本思想の社会史 — 生活と国体の交錯

岩崎正弥 著

序 章 課題と方法

3

第一節 課題 3

一・農本思想研究の整理

二・本書の立場と課題

第二節 分析視角と構成 10

第一部 大正期「自然」委任型「農本思想」

20

第1章

帰農思想の特質——新たな生活世界の創造——

はじめに 20

第一節 帰農の背景と帰農への批判 22

第二節 新たな生活世界の創造——「自然」への全面的自己委任 25

一・喜びとしての農業労働

二・「自然」への全面的自己委任

三・新たな生活世界の創造としての帰農生活

第三節 一五年戦争下の帰農生活者——帰農の客観的意義 39

一・帰農からの離脱

二・帰農の持続

むすび 47

第2章

江渡狄嶺の「農行」思想——生活哲学の可能性——

52

はじめに 52

第一節 狄嶺の帰農 54

第二節 「場」と「行」の思想 59

第3章

石川三四郎の「土民生活」——権力への抵抗——

86

はじめに 86

第一節 「土民生活」の源泉 88

一・抵抗の原点

二・永遠性への依拠——「自然」の発見

第二節 一五年戦争下の石川三四郎 98

一・運動の挫折

二・東洋文化史研究

三・「土民生活」の特質

第三節 「土民生活」と農本主義 105

一・石川の農本主義批判

二・石川の「複式網状組織」論

三・「土民生活」の有効性をめぐって

むすび 113

第二部 昭和恐慌期「社会」創出型「農本思想」

第4章

農本連盟の歴史的位置とその思想——農本イデオロギーと「地域社会」構想——

はじめに 120

第一節 昭和恐慌期の農村 121

一、農村窮乏の実態

二、都市・農村不均衡論

第二節 農本連盟の結成 128

一、日本村治派同盟

二、農本連盟

「農民」派の運動と思想 農本連盟の共通認識

第三節 農本連盟の「地域社会」構想をめぐって 140

一、山崎延吉の農村建設論

二、地方計画から国土計画へ

むすび 150

第5章

規範と自治の「地域社会」構想——岡本利吉と権藤成卿を中心に——

はじめに 157

第一節 岡本利吉の規範社会構想 158

一、協同社会創出構想の系譜

二、岡本利吉の規範社会論

規範経済学 規範社会論

第二節 権藤成卿の自治社会構想——雑誌『制度の研究』を通して 169

一、権藤の社稷自治論

第6章

農本主義運動、その理念と現実との緊張

はじめに 200

第一節 農本主義運動の勃興——農村青年共働学校入学と但馬での共働運動 201

一、農村青年共働学校での生活

二、郷里・但馬での共働運動

第二節 農本主義運動の活発化のなかで——純真社での活動と静岡県での農本自治運動 210

一、農本連盟の分裂——自治農民協議会と先駆者同盟の対立

二、静岡県での農本自治運動

共働運動から請願運動へ 飯米闘争の実態

三、地方農本主義運動のゆるやかに共有された生活世界

第三節 農本主義運動の終息——帰農から民芸への転回と農本自治運動の失敗 229

一、帰農から民芸へ

二、農本自治運動の挫折

永田新司郎と郷倉運動 太田良元治と医療自治運動

三、農本自治運動の分裂

第四節 「社会」創出型「農本思想」の変質——むすびにかえて 237

第三部 戦時期「 $\wedge$ 国体 $\vee$ 依存型」農本思想

第7章

総力戦体制下の農本思想——国体論との結合——

はじめに 250

第一節 「 $\wedge$ 国体 $\vee$ 依存型」農本思想の特質 251

一、戦時下の農村

二、戦時下の国体論

三、戦時下農政思想——「国本」としての農本思想

第二節 農政イデオログの葛藤——有馬頼寧と加藤完治を通して 260

一、有馬頼寧の農本思想

二、加藤完治の農本思想

第三節 戦時下農民文学の視線 268

第四節 戦時下の農本主義運動——農本自治からの転回 272

第五節 「 $\wedge$ 国体 $\vee$ 依存型」農本思想と戦時下農村厚生運動——むすびにかえて 279

第8章

戦時下農村保健運動の歴史的意味——滋賀県湖北地域を事例として——

はじめに 288

第一節 人的資源論と厚生運動 289

第二節 戦時下の国民健康管理と農村 293

第三節 滋賀県湖北地域における戦時下農村保健運動——長浜保健所の活動を中心として 297

一、一九三八年度の活動

二、一九三九年度以降の活動

三、指導の実態

農繁期共同炊事 健民特別指導

第9章

第四節 戦時下農村保健運動の特質——むすびにかえて 316

農民道場の「訓育」実態——大阪藍野塾卒業生へのアンケート調査から——

はじめに 328

第一節 藍野塾の設立とその「訓育」内容 329

第二節 農民道場生の意識構造 334

一、アンケート調査の内容紹介

二、考察

終章 農本思想の歴史的・現代的意味

——戦時下農村厚生運動の歴史的意味をめぐって——むすびにかえて 342

第一節 農本思想の変質 349

第二節 農本思想と生活世界 354

一、生活世界論からみた農本思想の変質

二、農村生活世界の構造変質をめぐって

第三節 農本思想の通説批判 360

あとがき